

1 魅力あるとちぎの地域づくりプロジェクト

1 プロジェクトの概要

(1) 目標

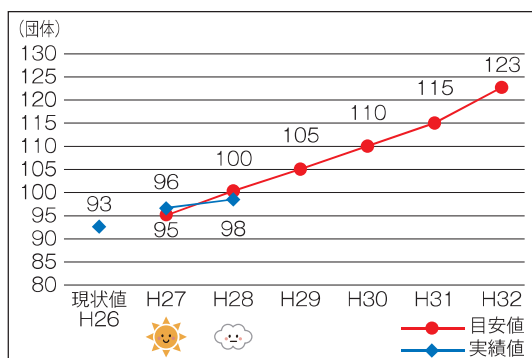
- 県民協働のもと、多様な主体が参加する地域づくりを推進し、にぎわいの創出やコミュニティの再生を図るとともに、本県への移住希望や若者の定着を実現できる環境をつくり、住みたいとちぎを創出します。

(2) 重点的取組

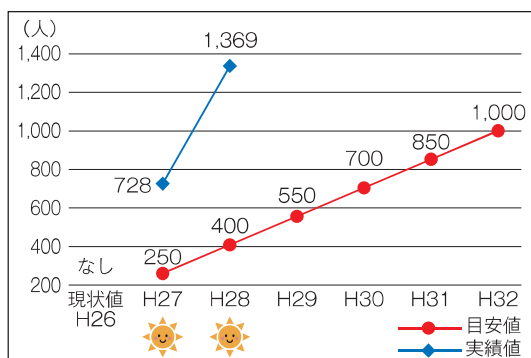
- ☆ 多様な主体との協働や連携・交流による地域づくり
- ☆ 住みたい、住み続けたい地域づくり

2 プロジェクトの進捗を表す成果指標等の状況

① 地域づくり団体数



② 本県への年間移住者数



(注)達成見込の判断



概ね順調



やや遅れている



遅れている

○成果指標の分析

- ① 地域づくり団体数は、地域づくり活動推進のための情報発信や県内市町へのPRにより増加しているが、目標達成に向けやや遅れが生じている。(全国17位)
- ② 本県への年間移住者数は、目標値に達している。平成27年10月以降、本県への移住者数を把握するため、市町に対して任意アンケートの実施を働きかけ、移住者数の把握を行う市町が増加している。

3 県民満足度調査の結果

	H28	H29	H30	H31	H32
満足・やや満足の割合	28.3%	40.1%			
やや不満・不満の割合	14.4%	11.0%			

4 主な取組成果

◎ 多様な主体との協働や連携・交流による地域づくり

▷地域課題への対応、地域の可能性やニーズを反映した特色ある地域づくり

☆地域住民が主体となったコミュニティ活動への支援

- ・わがまち未来創造事業を活用した多様な主体による特色ある地域づくり活動の推進（単独事業・連携事業）
- ・「地域づくり団体栃木県協議会」ホームページによる積極的な情報発信や、県内市町へのPRを通じた多様な主体による地域づくりに向けた機運の醸成
- ・「とちぎ協働推進大会」の開催による地域における協働事業の成果等の共有及び様々な主体相互の交流の促進
- ・女性の社会貢献活動を促進するための市町の取組や協働に関する意見交換等への支援の実施

☆農産物直売所等への新たな機能付加による地域ニーズへの対応

- ・農産物の集荷等のシステム構築に向けた、モデル地域（茂木町）での集荷体制WGの設置、集荷者の試験運行の実施及び携帯等で集荷を依頼するシステムの開発

○地域づくりの核となる人材やまちづくり団体の育成

- ・とちぎ若者会議や地域づくりワークショップ、地域づくり団体向けのスキルアップ研修会の実施による、地域づくりの担い手となる人材の掘り起こしや地域づくり活動の推進
- ・マネジメント能力強化研修や融資等によるNPO法人の運営基盤づくりへの支援
- ・地域において協働による取り組みをけん引する「地域協働推進員」の養成・委嘱
- ・県コミュニティ協会と連携した地域のリーダー育成事業「コミュニティカレッジ」等の実施

▷交流人口の拡大

☆スポーツイベントなど複数の市町が連携して取り組む地域活性化への支援

- ・国際サイクルロードレース「ツール・ド・とちぎ」の開催による市町が連携した地域活性化の促進

☆農林業体験など地域資源を活用した都市農村交流の促進

- ・地域組織が行う農業体験や農村資源を活用したイベント等、農村への誘客促進活動の支援

◎ 住みたい、住み続けたい地域づくり

▷県内高校・大学等と地域等が連携した取組への支援

☆地域課題解決に向けた高校・大学等と地域・企業等との連携・協働の取組の促進

- ・専門高校における地元自治体や企業との連携協定の締結
- ・若者の早期離職等の解消に向けた企業経営者と教員との情報交換会の開催
- ・大学・地域連携プロジェクト支援事業の実施
- ・NPO等と高校・大学生等との協働による地域づくりのためのワークショップ等の開催
- ・中学生を対象とした社会貢献活動の理解促進教材の作成及び出前講座の実施
- ・若者の地域活動参加を促進するボランティア体験事業の実施

☆宇都宮大学が取り組む「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」との連携

・地域理解のための講義への講師派遣・講師紹介等

▷とちぎの魅力や暮らし等に関する情報発信と様々な主体と連携した相談・受入体制の充実
☆とちぎの暮らしの魅力発信や市町と連携した一元的な空き家情報など移住に関する情報の提供
・先輩移住者へのインタビュー記事や県内の空き家等の情報を一元的に提供する専用サイト「ベリーマッチとちぎ」の運用による移住希望者への情報発信

☆暮らしや仕事に関する東京都内のワンストップ相談体制の充実
・東京都内の移住相談窓口の機能を拡充した、移住と仕事のワンストップ相談窓口「とちぎ暮らし・しごと支援センター」の開設

☆UIJターンや二地域居住等に関するセミナーや相談会、とちぎでの暮らしの体験機会等の充実
・都内での移住セミナーや、東京圏の若者が週末を利用して県内の地域づくり活動に参加するインターンシップの実施による移住希望者に対する情報発信

5 課題

☆＜住民による地域コミュニティの維持・再生活動の促進＞（再掲）

人口減少・高齢化の進展に伴い、行政サービスの低下や商店の撤退などの生活サービスの低下により、集落機能が衰退しており、将来的な集落の維持が危ぶまれる一方、その集落で暮らし続けたいというニーズも高い状況にあります。

また、自治会における役員のなり手不足、加入率の低迷などにより、地域コミュニティの希薄化が課題となっています。

人口減少社会が続く中で、集落機能を維持していくためには、地域住民主体による地域コミュニティの維持・再生活動を促進していく必要があります。

☆＜県内大学等の魅力づくり＞

大学の東京一極集中の是正は、全国知事会でも強く主張してきているところであり、県としても様々な場を通じて訴えていく必要があります。

また、地方大学の中から本県の大学等が県内の高校生等に選ばれるよう、大学コンソーシアムとちぎと連携し、各大学等の魅力づくりを進める必要があります。

☆＜県内大学生等に対する地域理解の促進＞

宇都宮大学は、県内の「知の拠点」として、産学官連携のもと、地域産業の発展と人材の育成に資する教育プログラムを展開しているところであり、同大学等により構成される大学コンソーシアムとちぎと連携し、県内の大学生等に対して、本県の現状と課題、県内産業の魅力や可能性等に関する理解を促進し、とちぎへの愛着心の醸成や地元定着につなげていく必要があります。